

もうすぐだね！

長崎歴史文化博物館

博物館の内部はどうなっているの？

建物は3階建てで、1階には講演会ができるホールや講座室、長崎の歴史や文化を調べることができる資料閲覧室などがあります。

2階は、吹き抜けのアトリウムを挟んで、北側が常設展示室です。南側は長崎奉行所立山役所を復元した建物で、奉行所関連の展示室のほか、畳敷きの「イベントの間」もあり、お茶やお花などいろいろな利用ができます。

3階には大規模な展覧会ができる企画展示室があります。また、ロビーからは奉行所の屋根部分を眺めることができます。

博物館の内部へは、駐車場や1階中央エントランス、2階からも入ることができ、自分の好きなコースを選んで自由に見学できます。



2階アトリウム

常設展示室の中はどうなっているの？

其ノ壱 大航海時代

入口を入ると、まず、大航海時代のコーナーがあります。

大航海時代とは、15～16世紀にかけて、スペイン・ポルトガルなどの西洋諸国が、コロンブス、バスコ・ダ・ガマ、マゼランらの地理上の発見をきっかけとして、航海や探検によって海外に進出した時代のことです。

同じ頃、日本は室町・桃山時代で、朱印船貿易によって、商人たちが中国や東南アジア

を舞台に活躍していました。

このコーナーに展示されるバイハイム地球儀やオルテリウスの世界地図、ティセラの日本地図、南蛮屏風などを通して、日本と西洋との出会いをうかがうことができます。また、アニョンさんの鏡、末次船絵馬などで、当時の自由でダイナミックな海外交流の様子を知ることができます。

大航海時代のコーナー



歴史文化展示室 平面図



オルテリウスの世界地図

長崎奉行所あれこれ

長崎奉行所立山役所は、延宝元年（1673）、長崎奉行牛込忠左衛門によって建てられました。これ以後、長崎奉行所は、この立山役所と西役所（現県庁）の2箇所となり幕末まで存続しますが、主となる庁舎は立山役所のほうでした。

記録によると、立山役所は4度の大規模な改修を行っていますが、今回は第3期、19世紀前半（文化文政期）の建物を復元しました。

この復元した建物そのものが大きな展示物となっており、白洲（奉行が判決を言い渡したところ）や書院（外交使節、大名などを応接する部屋）のつくりをみるることができます。また、奉行所展示室では、長崎奉行所の役割や仕事などを紹介します。



長崎奉行所復元部分